

障がい当事者部会 報告書

会議名	第2回 障がい当事者部会		
開催日時	令和4年3月29日（火）14時～16時		
開催方法	オンラインを併用した対面開催（板橋区役所 北館9階 大会議室B）		
出席者数	9名（内オンライン3名）、欠席1名	傍聴者数	2名

報告事項（2件）

議題名	地域生活支援拠点等の整備について
概要	・地域生活支援拠点等の整備について、現在までの検討状況を報告。 ・地域生活支援拠点が持つ5つの機能に関する課題整理し、解決に向け検討している。
主な意見・質問	・板橋キャンパスの共同生活援助の定員について、重度重複障がい者が3名入れるとのことであったが、そこに医療的ケアは含まれるか。 →現時点の情報で、短期入所では医療的ケアの受け入れを可としているが、共同生活援助については、知的障がい者で車いす利用者が入れると聞いている。 ・共同生活援助の知的障がい者の受け入れについて、支援区分はいくつを想定されているか。 →重度対応共同生活援助との理解であるが、詳細については今後協議していくところ。 ・重度の視覚障がい者が入所できる施設を検討して欲しい。
今後の方向性	地域生活支援拠点等運営検討会の進捗状況を、適宜、当部会に報告していく。

議題名	各部会からの質問（アンケート）
概要	・他部会から寄せられた障がい当事者部会員に聞きたいことの一部を、アンケート形式で用意した。本日から2週間後までに、回答をいただきたい。 【権利擁護部会からの主な質問】 ・成年後見制度について知っているか、利用したいと思うか など 【就労支援部会からの主な質問】 ・障がい福祉サービスの情報は、主にどこから入手しているか。 ・就労について、悩んでいたことや不安だったこと、さらに充実させてほしい、改善してほしい支援 など 【相談支援部会からの主な質問】 ・相談支援事業所について、あったら良いと思う支援や、改善してほしい支援 など
今後の方向性	・質問に対する意見については、事務局で整理し、質問が出された各部会へ報告する。 ・次の当部会で、寄せられた意見を報告する。

協議事項(1件)

議題名	各部会からの質問
概要	他部会から寄せられた障がい当事者部会員に聞きたいことを議論する。 今回は、以下4つの質問について、意見交換を行った。 ①困ったときの相談先 ②相談の解決・相談先の印象 ③板橋区の相談支援の充実 ④コロナ禍による不安
主な意見・質問	① ・この質問について父母の会で意見をもらってきた。半数の方が福祉事務所など相談できる場所がある。また、父母の会では、身体障がい者相談員が相談窓口として担っているところも大きい。(身体) ・各福祉事務所、障がい者福祉センター、民生委員が多い。また、健康福祉センターとの繋がりを大切にしている。(精神) ・一人暮らしで困ったときには福祉事務所。この他、障がい者福祉センターや生活支援センター。(聴覚) ・相談先として障がい者福祉センター、病院が大きい。事業所が相談にのってくれることも多い。事業所には、日常生活一般の相談もしている。(高次脳) ・1年に1回、福祉行政担当者と日常生活用具等について、相談や話し合いの機会を設けている。(視覚) ・身近な相談などは、親の会、先輩の母、障がい者相談員などに相談し、大きな問題については福祉事務所に相談する。(知的) ② ・父母の会にて、はっきりとした対応が得られなかったという話があった。また、良い印象を持たなかった理由の一つに、保護者の高齢化、子の加齢による障がい程度の重度化、医療分野の関わりなど、様々な状況が重なったことで相談者が上手に伝えきれなかったという理由も挙げられた。(身体) ・悩みについては福祉事務所に相談している。時々、私自身が聴覚障害者協会の事務所で相談を受けることもある。その場合は、別の機関を紹介したり、そこでアドバイスをしたりすることもある。(聴覚) ・視覚障がいの相談体制について、状況に応じた相談先がまとめてあるリーフレットなどが眼科に置いてあったりする。板橋区で整備していなければ整備して欲しい。(視覚) ・最終的には福祉事務所に相談しており、ほぼ解決していると思う。ただ、入所施設やグループホームなど、暮らしに関する相談への対応は時間を要し、なかなか解決しないと聞いている。(知的)

③	・重度心身障がい者が増えてくるので包括的ケアが必要だと思う。サービス等利用計画をうまく活用していくことで緊急時の対応もできればと思う。(身体) ・障がい当事者で引きこもっている方が6割、親元にいる。両親が居なくなったとき、どうするかが重要な問題。(精神) ・高次脳機能障がいの認識が無い場合がある。退院が先行することで家族や当事者自身が障がいと診断されたことを忘れてしまうケースもある。行政にはサービスの紹介を適切に行っていただくとともに、支援者も含めたアウトリーチが必要と考える。(高次脳) ・ケースワーカーの職員などに、障がいに関する研修を強化して欲しい。 ・福祉事務所の手続きを通さずに利用できる訓練施設もある。そのような勉強会を開いて、窓口で相談された時に、職員が的確な案内をして欲しい。(視覚) ・軽度知的障がい者が気軽に相談しに行く場所がない。そういう場所が板橋区にできたらいいと思う。 ・複雑な問題を抱えていると支援者が手一杯で支援を引受けてもらえない。ひきこもり支援に関して窓口があればと思う。
④	・コロナに関する赤塚ホームの対応など、今現状でおこっていることなので、早急に対応し、早く動いて欲しい。 ・コロナが始まってから行事、集まる形態がなかなか開催できない。この状況下では、高齢者一人で生活している方などに会えないので、心配なところである。 ・高次脳機能障がい者同士が交流することで、障がいを理解することがある。そのような機会が必要なのに、その機会を大きく奪われていることが、辛いところ。 ・リモート支援をうけることで、生活リズムが狂わずに過ごせたという話を聞いている。 ・まだ先がはっきり見えないなか、支援者として迂闊に連絡ができない。なんとか身内の中で助け合ってできればいいが、現状は非常に厳しい。 ・知的障がいの方で感覚過敏でマスクができない、手を清潔にできない、感染が心配だと言って通所できていない人もいる。今までひきこもりでなかった方がひきこもってしまった。そのような方に支援が届かないのではと心配である。 ・相手がマスクをしていることで、表情がよめない、相手のことがわからないので、イライラし、相手にひどい言葉を言ってしまうというケースもある。 ・視覚障がいの場合、色々なところを触らないといけないので、感染防止が大変である。また、コロナ予防接種券の送付の時は、視覚障害者団体を通じて事前に情報を与えてくれるとありがたい。
協議結果	・質問に対する意見について、質問が出された各部会へ報告する。 ・適宜、他部会から障がい当事者部会の部会員に伺いたいことについて、当部会の議題として取り上げていく。